



アカザエビ

駿河湾内

主な漁業と漁期

小型機船底びき網漁業: 9月～5月
えびかご漁業: 12月～3月

生態

アカザエビは深海性の大型エビで、高級食材として知られており、沿岸漁業にとって重要な水産資源です。

●成長・産卵

10～11月ごろに400個～1,500個の卵を産むとされています。ふ化後はゾエア期を経ずメガロパ幼生へ成長し、その後20日ほどで稚エビへと変化します。成長速度は遅く、最小商品サイズ(頭胸甲長45mm)になるまで2年以上かかるとされています。

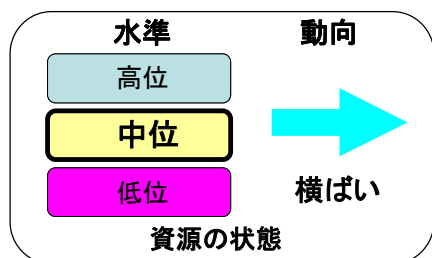
●分布

銚子沖から日向灘の水深200～400mの砂泥底に巣穴を掘り生息しています。静岡県海域においても、相模湾、駿河湾及び遠州灘にかけて分布しています。



アカザエビのメガロパ幼生
(すでに親エビに近い形をしています。)

漁業・資源動向



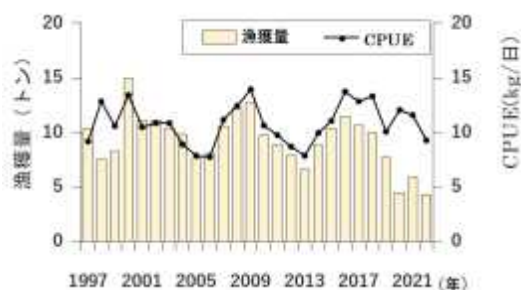
【資源】

駿河湾内における漁獲量とCPUEをみると、小型機船底引き網漁業、えびかご漁業では1997年以降、共に横ばい傾向にあることから、資源水準は中位、動向は横ばいと判断されます。

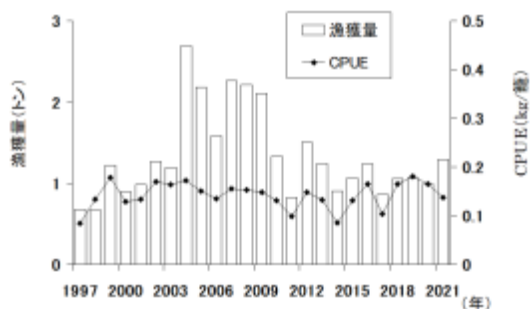
しかし成長速度が遅いため、資源状態が悪化すると回復に時間がかかることから、漁獲圧を高めないように注意が必要です。

【漁業】

・主に小型機船底引き網漁業とえびかご漁業で駿河湾内にて漁獲されます。



沼津地区の小型機船底びき網漁業におけるアカザエビの漁獲量及びCPUE



えびかご漁業におけるアカザエビの漁獲量及びCPUE

担当者の一言: アカザエビ科の仲間は日本のみならず、世界的に人気のある高級食材です。

問合先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817